

輸送安全総点検の緊急実施

平成17年1月から3月にかけて、東武鉄道伊勢崎線竹ノ塚駅構内の手動踏切での死傷事故や新千歳空港における日本航空ジャンルの管制指示違反等、鉄道及び航空の分野において人的要因と思われる事故やトラブルなどが多発した。このため、国土交通大臣の指示により、3月24日に緊急総点検が通達され、鉄軌道事業者、航空運送事業者及び航空管制機関において総点検が実施された。

この総点検は、基本的に各輸送事業者等の自主点検とし、次の事項に力点を置いて実施された。

安全に直接関わる現場業務については、現場の状況に適したマニュアルの整備及び周知徹底等の状況
安全確保に関する社内体制等については、現場でのトラブルに関する報告確認のルール及びトラブルの再発防止検討等のための体制等の状況

特に、航空分野については、トラブルが多発していることもあり、点検の実施状況について国土交通省による査察が行われた。

なお、各輸送事業者等には点検完了後の結果等について報告を求め、必要に応じて指導等を行うこととした。

また、総点検の実施期間中の4月25日には、JR西日本福知山線において列車が脱線し、107名の死者と460名の負傷者が生じるという、極めて重大な事故が発生した。

ゴールデンウィークを間近に控え、国土交通大臣は、改めて全国の陸海空の公共交通機関に対し、安全対策の徹底を図ることを強く求める内容の通達を発出するとともに、5月2日及び6日に大臣自ら、鉄道事業者5社、航空2社及び航空管制機関2か所の総点検の実施状況査察を行った。

なお、羽田空港の管制機関に対しては、4月29日に管制ミスが発生させたことから、早急な再発防止対策の策定も指示している。